

行って来ました まんじん ねんがしょうてん 100万人の年賀状展

仙台市若林障害者福祉センター生活介護利用者は2月7日（金）に仙台文学館を訪れ、「100万人の年賀状展」を見学して来ました。幅広く年賀状を募集し、出品された作品は館内に展示される仕組みのようです。センター利用者の中で出品した方はいらっしゃいませんでしたが、たくさんの刺激を受けて来ました。冬季の作品展は少ないので、次回はチャレンジしたいですね！



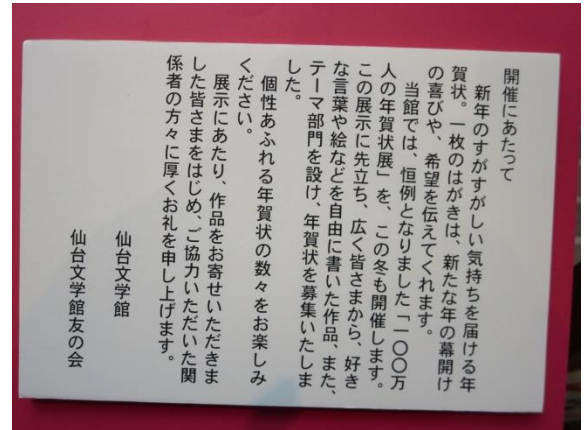
【仙台文学館に到着！】



【仙台の伝統的門松をめぐり、いざ館内へ！】



【富山真緒さんがエレベーターのボタンを操作し、到着すると《恒例》との案内がありました】



【到着すると《恒例》との案内がありました】



【たくさんの作品が展示され、圧倒されました。】



【小さな展示スペースが作品でいっぱいです】



みうらはつえ はくしゅ うえ ゆび ふきぬめ しぶん こえ はんきょう おもしろ
 【三浦初江さんは拍手や上を指さし、吹き抜けでご自分の声が反響するのも面白かったようです】



おもて うら さくひん
 【パネルの表と裏に作品がビッシリ！】

らいねんがんばん かどまつ もと
 【来年頑張りますか。門松くぐって戻りませう！】

歴ネット企画

仙台の伝統的な門松

正月の伝統的な風景の一つに門松があります。現在よく飾られている門松は、斜めに切った三本の竹をワラで巻くという形ですが、かつて仙台北下周辺で飾られていた門松は、これとはまったく違う形のものでした。そして、藩主が住む仙台北下に飾られる門松は、実は根白石村(泉区根白石)の農民が付近の藩有林(御林)から切り出した材料で作られていたのです。

下の図は、江戸時代の版画の下絵に描かれた仙台北下の門松です。まさしく門のような形に松などを取り付けたものでした。

① 真柱(しんばしら)
松などをくり付けするための支柱でおもに栗の木が用いられます。

② 三層松(さんがいまつ)
3層に枝分かれした松で、現在でも正月の松飾りは三層の松が基本となっています。仙台北下では五層、七層の松が使われました。

③ 笹竹
三層の松の上に取り付け、松と松をつなぐように隙に済ませずして使います。後者の場合、藁を巻いた竹を用いることもあります。

④ 鬼打木(おにうちぎ)
3枚から12枚前後の板や割り木で、真柱の根元に巻き付けるものです。仙台北下では3枚でした。また、巻き付けずには敷板を横向きに纏で結んで真柱の下の方に垂らすものもあります。

⑤ ケンダイ
松と松の間には「ケンダイ」と呼ばれるしめ飾りを付けます。ケンダイの中央には、スルメや尾布、相模類、蓆などの縁起物が取り付けられます。

○仙台北下の門松と根白石村
仙台北下でも正月には城内の門に門松を飾りました。寛文10年(1670)ころの様子を記した古文書によると、全部で42カ所分の門松の材料が用意されたようです。この古文書では、門松の真柱の長さを1丈1尺から1丈3尺、すなわち3mから4mとし、さらに用いられる松は五層と記しています。見上げるような大きな門松だったことがわかります。

○根白石村の御門松上人
こうした仙台北下で用いる門松の材料は、根白石村から納めるのが恒例となっていました。門松を納めるのは8つの家に限られ、その家の当主は「御門松上人(おんかどまつあにん)」と呼ばれていました。御門松上人たちは租税の一部を免除されるなどの特権を与えられていましたが、五層の松など大きな材料を集めるには、毎年相当に苦労したようです。

○根白石の門松
仙台北下の門松の姿を描いた資料は発見されていません。しかし、仙台北下に門松の材料を納めていた根白石の門松にその面影を見ることができそうです。右の写真は昭和40年(1965)ころに根白石周辺で撮影されたものです。上の写真に見えぬ門松は、やや質素に見えますが、真柱、三層松、鬼打木、ケンダイといった門松の要素はしっかりと揃っています。下の写真は、御門松上人の子孫の家で飾られていた門松で、鬼打木は、3枚の板が横向きに結んだ状態で真柱にくくり付けられています。

天保3年(1783)から4年にかけて発生した天明飢饉の状況を描いた絵に見える巻物(堂米)付の門松(仙台北下博物館蔵)

※写真はいずれも「祭礼と年中行事」(仙台北下歴史民俗資料館)より転載

※この事業は、文化庁の「地域と連携した美術館・歴史博物館創造的活用事業」より助成を受けています



でんとうてき かどまつ しょうさい
 【伝統的な門松の詳細】

ごとうさくひん あっかん すご
 【合同作品が圧巻！凄かったです!!】